



▲農畜産物品評会に出品された見事な農産物



▲生徒手づくりの木製自動車の展示（鷹巣技術専門学校）



▲質の良い見事な農産物が並ぶ
（写真：北秋田市長賞のとまと）



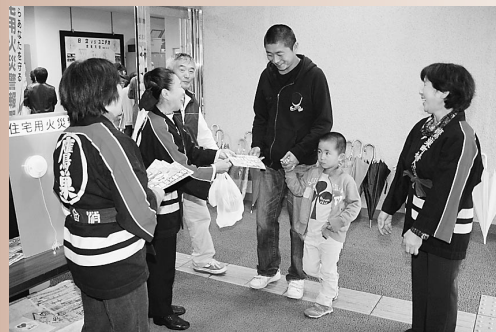
▲生徒が実習農場で育てた農産物の販売（鷹巣農林高校）



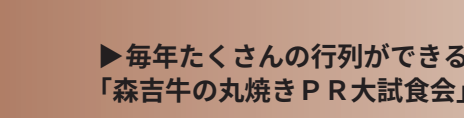
▲屋外のテントでは、「やまと豚」や「なんこ鍋」などの特産品を販売



▲「いす」や「すのこ」づくりを体験
（北秋田森林組合の木工教室）



▲来場者に「住宅用火災警報器」の設置を呼びかける北秋田市婦人防火クラブ



▶毎年たくさんの行列ができる
「森吉牛の丸焼きPR大試食会」



◀ステージで行われた、「ジャズ生演奏」や「歌謡ショー」、「お笑い親子漫才」などを楽しむ来場者

多くの人出でにぎわった第3回産業祭



第3回北秋田市産業祭

農・商・工の物産 技術を一堂に

「見直そう 活かそう 郷土の資源」をテーマとした第3回北秋田市産業祭が10月25日・26日の2日間、鷹巣体育館を会場に開催され、農・商・工全般にわたる展示品の観覧や特産品を買い求める多くの人でにぎわいました。

とあいさつ。

合併初年度は、産業祭（産業文化祭）は旧町ごとに分散開催されましたが、昨年からは市全体の地場産業の振興や地域経済の活性化を図るため、市や商工会、JAなどで作る実行委員会が主催し、一本化したイベントとして開催されています。

会場の鷹巣体育館には、開館の午前10時から大勢の人が詰め掛け、ステージ前で開会セレモニーが行われました。はじめに副市長の佐藤修助実行委員長が、「昨年は、豪雨災害で大変なご苦労をされたと思う。目の前に並んでいる素晴らしい農産物等を見ると今年は災害等がなくて本当によかったと実感している。農業、商業、工業はもとより一層相互の技術を高められてさらなる発展に繋がってほしい。明日までの産業祭をぐゅっくりお楽しみください」など

また、来賓の岸部陸市長が、「昨年の今頃は、災害のあとで来る春に本当に田植えや作付ができるのか心配な状態だった。市としても復旧を春に間に合わせるよう頑張ったが、皆さんたちが一生懸命努力した成果で、実り多き収穫の秋を迎えることができた。本当によかったと思っている」などといさつ。

1日目のステージは、郷土芸能「鷹巣ばやし」や金沢恵美子地元民謡ショーが行われ、2日目は、フィリピンで「ジャズの神様」として有名なレネ・クルーズの生演奏や桂ゆり歌謡ショー、「梅乃つばみ・ハッパ」によるお笑い親子漫才で会場を盛り上げました。

館内では、JA農産物品評会や漬物、お

格安販売。「やまと豚」や「なんこ鍋」、「たんぼドック」などの特産品に多くの買い物客で賑わいました。

また、体育館横では、チェンソーアートの実演や作品の展示、警察車両や消防ハシゴ車の展示、そして、毎年たくさんの行列ができる、「森吉牛の丸焼きPR大試食会」では、集まった市民に美味しい牛肉が振る舞われました。